

V107a SKA プロジェクトへの参加計画 10

赤堀卓也, 本間希樹, 町田真美 (国立天文台), 市來淨與 (名古屋大学), 新沼浩太郎 (山口大学), 他国立天文台水沢 VLBI 観測所 SKA1 サブプロジェクト

Square Kilometre Array (SKA) 計画の国内外の進捗を報告する。世界では、条約批准国が 10 ヶ国 (カナダが追加) に加え、初期アレイ AA0.5 の建設も全体的には順調である。一方、世界的なインフレ等による資金不足の課題は継続しており、また副所長を務めていた Joe McMullin 氏が退職し建設体制にも変化がある。サイエンスでは先行機での研究が盛んである。2025 年は 10 年ぶりに SKA 科学白書を更新する予定であり、2025 年 6 月にドイツで開催される SKA General Science Conference は科学白書とキーサイエンス観測の議論が中心となる。SKA Regional Centre (SRC) は 2024 年 3 月 SKAO 評議会によって新体制へと移行することが承認され、新たな体制で 2025 年初頭の SRCNet v0.1 のリリースに向けて開発が大詰めとなっている。

日本国内では、文部科学省ロードマップ 2023 に選ばれなかったことを受けて、参加計画の見直しをコミュニティと国立天文台水沢 VLBI 観測所 SKA1 サブプロジェクトとが協力して急ピッチで進めている。7/29-30 にコミュニティのシンポジウムを開催予定である。また並行して獲得を目指す競争的資金についても、複数の大型科研費の提案を行った。サブプロジェクトは大学等研究者の援助を得ながら組織の拡大を図っている。科学では SKA 先行機を使った研究と奨励を進めている。SRC は v0.1 への参加を表明し具体的実装を加速している。技術では MID AIV への参加を加速させながら、LOW AIV については技術開発もサブプロジェクトに位置付け発展中である。VLBI 記録系の開発も進む。